

伊勢保健所 鈴木 まき 所長

私が公衆衛生行政に入ったきっかけは、大学の公衆衛生学の講義の際に、講師としていらっしゃった厚生労働省医系技監のいきいきとした姿にひかれたことです。

また初期臨床研修医の時に、自宅でアルコールを飲んでしまい入退院を繰り返す肝不全の人、糖尿病が重症化して透析や足の切断をせざるを得ない人、精神疾患で家族のサポートがないため自宅に帰れず社会的入院をしている人など、臨床現場だけでは解決することのできない様々な患者さんの現状を実際に目にし、医師として自分に何かできる事はないかと考えるようになりました。公衆衛生の世界に思い切って飛びこみ、もう25年になりました。

保健所スタッフを経て保健所長になってから13年目になりますが、公衆衛生の仕事は実に多様です。大学の講義の印象で、公衆衛生医は人と会わずに、机の上で統計にずっと向き合う様な仕事をしているイメージを持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、どちらかという、地域で活躍している人達と会って話しをする機会が多く、人と人のつながりが大切な仕事です。

特に感染症対策においては、医療機関、医師会、管内の市町、消防などの協働がとても重要で、保健所が重要な役割を担っています。2021年現在において、新型コロナウイルス感染症対策では感染拡大防止のため公衆衛生医師として迅速な対応が必要ですが、普段からの顔と顔が見える関係に助けられ、迅速かつ円滑に対応することができ、地域関係者の皆様に大変感謝しています。

このように、公衆衛生医師の仕事は医師としての自分を生かすことができ、社会的やりがいも大きい魅力のある仕事です。興味がある方、ぜひ1度門をたたいてみてください。

本県では社会医学系専門医研修プログラム「とこわかみえ プログラム」があり、三重県職員として働きながら専門医を取得することもできます。「常若（とこわか）」という言葉は、古き良きものを継承しつつ、常に新しく生まれ変わることとされています。公衆衛生の世界も、まさに良いものを継承しつつ時代に即して新しく対応していくことがとても大切です。公衆衛生のとこわかを目指し、皆様の若い力をお待ちしています。